

<p>1 開会</p> <p>事務局 (佐藤課長)</p>	<p>ただ今より、平成28年度第2回函館市南茅部地域審議会を開催する。</p>
<p>2 会長あいさつ</p> <p>熊谷会長</p>	<p>先日、雪虫が大変多く飛んでいたと思っていたが、1日2日前から大変寒さが感じられるようになった。皆さんには昆布等の作業で大変お疲れの中、御出席いただき御礼申し上げます。本日の地域審議会に当たっては、南茅部地域で平成29年度に予定されている事業計画（案）について、事務局から報告と説明を受けるほか、前回の地域審議会の皆様には御提案をさせていただいた北海道新幹線開業後の地域としての取り組みについて、意見の取りまとめをお願いをした経過もあり、意見交換を行いたいのでもよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本地域審議会委員の任期が11月末までとなっていることから、本日が現委員での最後の地域審議会となる。委員の皆様には忌憚のない御意見御提言をお願いして開会のあいさつとする。</p>
<p>3 支所長あいさつ</p> <p>佐藤支所長</p>	<p>本日は委員の皆様には、時節柄大変お忙しい中、御出席を賜り、御礼申し上げます。また、平素より当地域の振興はもとより市政全般にわたり、御理解と御協力をいただいていることに対し、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。</p> <p>本日の地域審議会であるが、熊谷会長のごあいさつにもあったとおり、平成29年度地域別事業計画（案）について報告をさせていただくほか、前回の地域審議会から、引き続き北海道新幹線開業後の地域としての取り組みについて意見交換が予定されているのでよろしくお願い申し上げます。</p> <p>なお、本日の地域審議会は、現在の委員の皆様の任期中最後の開催となる。熊谷会長をはじめ委員の皆様におかれては、これまで並々な御協力を賜り、改めて感謝を申し上げます。</p> <p>本日の会議においても、皆様からの忌憚のない御意見や御提言を賜るようお願い申し上げます、開会に当たってのごあいさつとさせていただきます。</p>
<p>4 出席委員の報告</p> <p>事務局 (佐藤課長)</p>	<p>本日は、出席者11人、欠席者4人であり、出席者が過半数に達していることから、地域審議会の設置に関する規程第8条第3項の規定により、会議が成立していることを報告する。</p>

5 報告事項

(1) 諸般の報告

熊谷会長

(1) 諸般の報告について、報告をお願いします。

佐藤支所長

報告事項は全部で4点である。

1点目は、平成28年第3回市議会定例会についてである。9月1日から9月20日までを会期として開催され、一般質問では18名の議員から質問があった。南茅部地域に関連する項目としては、南茅部病院の建て替えにかかわって、療養病床についての病院局の考えや社会的入院といわれている方々の受け皿として、恵山病院の活用策などについて質問があった。そのほか、函館産昆布のブランド化にかかわって、函館市が全国一の昆布の生産地であることや函館産昆布の質の高さを、全国にPRしていくことが必要とのことから、市の認識やその手法などについて質問があった。

2点目は、8月30日に発生した台風10号についてである。今回の台風は、非常に特異な経路をたどったもので、気象庁が1951年に統計を開始して以来、初めて、東北地方太平洋側に上陸し、東北や北海道などの広い範囲で被害が発生したところである。南茅部地域における被害状況としては、暴風や波浪、大雨による屋根や外壁の破損などの住宅被害や車庫や物置が倒壊するなどの非住宅被害、道路や河川、民家裏の倒木などの被害があったほか、漁業施設においては、昆布養殖施設や定置網、船揚場などに被害があったところである。

3点目は、とことん浜味祭りについてである。10月9日の日曜日に開催予定されていたが、台風10号による定置網の被害により、残念ながら中止となった。昨年が続いての中止となり、毎年地域内外から多くの方々の御来場をいただいているイベントであり誠に残念であった。来年以降、天候に恵まれることを期待しているところである。

4点目は、南かやべ縄文まつりについてである。10月1日の土曜日に、縄文文化交流センターにおいて、同センターの指定管理者である一般財団法人道南歴史文化振興財団をはじめ、南かやべ漁業協同組合や南茅部町内会連絡協議会などで組織された「縄文まつり実行委員会」の主催により開催された。私も見学をしたが、南茅部高校書道部による書道パフォーマンスや磨光小学校児童による大漁太鼓の演奏、札幌から招かれた演奏家による「縄文太鼓」の演奏が披露され、観客を魅了した。また、火おこしや植物を使ったストラップづくりなどが体験できる縄文ワークショップでは、大人も子供も楽しむ姿が見られた。このほか、同センターに隣接する「史跡垣ノ島遺跡」の見学会も開催され、参加者には、教育委員会の学芸員から竪穴住居跡や国内最大規模の盛土遺構などの説明を受けて、縄文文化や縄文人の生活の魅力を感じていただいたところである。

以上で、諸般の報告を終了する。

熊谷会長	質問や意見などはあるか。
高谷委員	台風10号の件だが、まれなケースであったとは思うが、大舟漁港本港の斜路の被害について、たびたび被害が起きており、根本的な解決策について北海道から示されているのかどうか聞きたい。
産業建設課 (川井課長)	北海道からの抜本的な解決方法については、今はまだ示されていない。今回を含めて3回目の被害になるが、私たちも渡島総合振興局水産課と函館建設管理部に災害をなくすためにはどうするかということに視点をおいた話をしている。今の漁港の東第2防波堤を延ばす方法しかないということで、地元の意向を確認した上で要望・協議を進めている。延ばす長さやどのような構造にするかは調査も必要であり、それについては、皆さんに報告しながら進めたいと思っている。
熊谷会長	調査結果がわかり次第、お知らせしていただきたい。
佐々木委員	台風の話に関連すると思うが、昨日、波が高いときに古部方面に行く用事があったが、道路に波が上がって濡れていた所が何カ所か見受けられた。そういうことは把握しているのか。把握しているのであれば、それは危なくないとか、今後直していくという考えがあるのか。
産業建設課 (川井課長)	台風や大きな低気圧による国道等への越波について、私たちがパトロールしている中では、大きな波が越波することはほとんどない。国道の管理は開発建設部が所管であり、私たちのパトロールのほか、開発建設部が随時パトロールしている。しぶきや越波による通行止め等の判断は開発建設部が行っており、危険な状況であれば、通行止め等の処置をとり、危険でない場合は通行させる判断をしている。道路が濡れている状況については、私たちも開発建設部も把握している。
佐々木委員	海沿いの道路で、ちょっとした崖っぷちのところでは、こんな波でも道路に水しぶきが上がっているのだなと昨日再確認した。毎日のように開発建設部の車が、パトロールしているのを見かけるがよろしく願います。
中村委員	同じく台風10号の関係であるが、1月の低気圧と同様に、船揚場斜路や消波ブロックの損壊等について、函館市に迅速な対応をしていただき前日も御礼を申し上げたが、今回の対応についても心から御礼申し上げる。今回、養殖施設や定置網の被害が相当多かったところであり、皆さん御存じのとおり噴火湾のホタテの養殖や昆布養殖等の施設も、役場が非常に迅速に北

<p>熊谷会長</p>	<p>海道や国に要請をして鹿部までが激甚災害の該当となった。すぐ隣に望路地区の昆布養殖の施設もあり，若干被害があったが，なぜ南茅部地域は激甚災害の対応にならないのかと思った。やはり激甚災害の要領の中で，1市町村で2，000万円以上の被害がなければ該当にならないとあり，先般，函館市内の5単協の専務が集まり確認したが，やはり総額で2，000万円にはならない状況で，南茅部地域は1，000万円弱であった。そういう状況の中で，一方では激甚災害の対応となって漁業者としてはとまどいを感じている。また，大型定置網被害の報告では，2億5，000万円から3億円くらいの被害があると聞いている。あくまでも個人負担もしくは低利な金利で災害対策の資金を借りなければならない状況である。今後こういう被害はあってはならないことだが，そういう場面があったときは改めて函館市と漁協と，連絡を密にしながら，国の制度を活用したいので，その辺を含んでいただければと思っている。答弁は不要である。</p> <p>中村委員から被害についていろいろと報告があったが，必要なものについては，関係部局を通して市にお願いいただき解決を図っていただければと思う。</p> <p>ほかに質問や意見などはあるか。</p> <p>(なし)</p>
<p>6 議題</p>	
<p>(1) 平成29年度地域別事業計画(案)について</p>	
<p>熊谷会長</p>	<p>日程6の議題に入る。平成29年度地域別事業計画(案)について願います。</p>
<p>事務局 (佐藤課長)</p>	<p>資料1の「平成29年度地域別事業計画明細表」により御説明する。</p> <p>まず，表紙の枠の中に，この資料の趣旨を記載している。この資料は，合併建設計画などを基に，平成29年度に想定される事業を掲載している。これから新年度予算の要求作業を進めていくに当たり，皆様から御意見等をいただくためのたたき台として作成している。この後，必要性や緊急度，さらに費用対効果などを考慮し，要求作業を進めることにしているので，あらかじめ御理解いただきたい。</p> <p>1ページであるが，項目ごとに，南茅部地域関連分について説明する。1の「多様で力強い産業を振興するまちづくり」の，(2)「水産業の振興」である。「漁港の整備」については，臼尻，木直，尾札部黒鷲岬地区，尾札部，川汲，大舟の各漁港の整備を予定している。「漁場の造成」については，漁協が事業主体で行うコンブ漁場の雑海藻駆除事業に対する補助事業である。次に，「ウニ・アワビ種苗等放流」については，資源増大のため，漁協が事業主体で行うウニ・ナマコの種苗放流事業に対する補助事業である。</p>

次に、「漁業用機械等購入資金の融資」については、全地域にわたるものとなるが、例年同様に予定されている。次に、「漁業後継者対策」についても、全地域にわたる事業であり、南茅部地域関連分としては、漁業後継者育成対策事業で漁業資格取得費補助事業を予定している。次に、「その他関連事業の推進」については、船揚場の維持補修にかかる補助事業である。

2 ページであるが、(3)「農林業の振興」である。「市有林等の整備」については、実施箇所や事業量は精査中であるが、間伐や下刈などを予定している。

3 ページであるが、(5)「観光の振興」である。「観光・宿泊施設の整備」については、南かやべ保養センターとホテルひろめ荘の改修事業を予定している。改修箇所については精査中である。次に、「各種イベントの支援」については、例年同様ひろめ舟祭りに対する開催補助事業を予定している。

4 ページであるが、2の「安全で快適な生活環境を充実するまちづくり」の(2)「消防・防災・生活安全の充実」である。「河川の整備」については、市で管理する河川の堆積土砂除去事業を予定している。次に、「小規模治山事業」を予定している。

5 ページであるが、(3)「交通・情報ネットワークの形成」である。「生活路線バスの維持運行」について、全地域にわたるものであり、民間のバス事業者への助成を予定している。次に、「その他関連事業の推進」であるが、地域内交通確保対策事業として、地域福祉バスとスクールバスの運行事業を予定している。今年度については福祉バスの購入が計上されている。次に、(5)「生活環境の整備充実」である。「水道の整備」では、簡易水道の配水管の整備として、今年度と同様に、白尻地域の配水管の更新などを予定している。次に、「合併処理浄化槽の設置促進」については、全地域にわたるものであり、合併処理浄化槽の設置補助事業を予定している。

6 ページであるが、3の「やさしさとぬくもりのあるまちづくり」の(1)「保健・医療の推進」である。「医療機器の購入ほか」については、医療機器整備事業として行う医療機器の更新やリース料となっており、内容は精査中である。

7 ページであるが、(3)「高齢者福祉の推進」である。全地域にわたる事業として、前年同様「ひとり暮らし高齢者等緊急通報システムの整備」である。次に、「その他関連事業の推進」については、前年同様、高齢者温泉等入浴優待事業を予定している。

8 ページであるが、4「いきいきと学び地域文化を育むまちづくり」の(4)「特色ある地域文化の創造」である。「大船遺跡等の保存・整備」については、史跡垣ノ島遺跡整備事業と縄文遺跡群世界遺産登録の推進事業を予定している。次に、「その他関連事業の推進」については、臨港道路・新外環状道路の発掘調査受託事業を予定している。

9ページであるが、5「連携と交流によるまちづくり」の(1)「住民参加の推進」である。「地域コミュニティ施設の整備」については、地域会館改修事業として、磯谷会館の改修を予定している。

説明は、以上である。

前回の地域審議会において、平成27年度の実績の資料で質問があり、回答を留保していた事項があったので、あわせて説明をさせていただきます。

(資料を配付)

配付した資料の(5)「観光の振興」における「冬季観光客、修学旅行の誘致ほか」で、全地域にわたるものになっているが、予算額が73万7,000円に対して、実績額13万3,000円となっており、どのようなことに使われたのか。また、予算を残すよりは、他に振り替えたりして使えなかったのかとの質問であった。これについては、関係課に確認をしたので説明したい。この予算は、修学旅行の誘致にかかる予算を計上したものであり、当初は、函館市と関係団体等で、複数回、東北や関東圏にある学校、旅行業者を訪問しPRを考えていたが、北海道新幹線の開業について、詳細な新幹線の時刻や停車駅などの情報をつかむのに時間がかかったことなどから、関係する業者と協議し誘致方法の見直しを行い、市が単独で誘致活動を行い、また時期的に1回しか誘致活動を実施できなかったことにより予算残が生じたものである。なお、残額については、予算の組み替えなどを行い、他の観光事業の中で執行したということであった。

説明は以上である、よろしく願います。

熊谷会長

おおむね平成29年度も平成28年度と同じような事業内容と思う。大きく変わった点はないと思うが質問はあるか。

藤川委員

2点お聞きしたい。

まず、1点目であるが、1ページの「漁港の整備」の中で平成28年度まで望路漁港が載っていたが、平成29年度では載っていないということは、平成28年度で完成予定ということか。2点目は、4ページの小規模治山事業の中に計画が載っているが、このたびの台風10号の被害で、ケカチ浜の裏山が倒木で危険な状態になっているところが1カ所ある。それにはこの小規模治山事業には見込んであるのか。

産業建設課
(川井課長)

1点目の望路漁港の完成年度について、今年目で5年目を迎え予定どおり平成28年度で完成となり、平成29年度以降の計画はない。

2点目の岩戸地区の倒木の関係について、この計画には入っていない。今の計画では、川汲地区の郵便局の付近ですでに崩れているところがあるの

	で、函館市直轄部分としてここを予定している。
藤川委員	台風10号での被害を受けた裏山について、いずれは着工を見込んでいるのか。
産業建設課 (川井課長)	岩戸地区の今回の倒木のあったところは、治山工事が終わっているが、渡島総合振興局に確認をしてもらった。今のところ倒木だけということで、地滑りなどの危険な状況ではないということであった。
藤川委員	危険な状況ではないというのはどういうことか。私が見ても危険である。
産業建設課 (川井課長)	倒木はしているが、今の状況では地滑りや崩れてくる危険性は小さいと渡島総合振興局から聞いている。
藤川委員	個人からも話は来っていないか。私が見回りしたときは危険だと感じており、ゲリラ豪雨が来たときには危険な状態である。
産業建設課 (川井課長)	その辺は私どもも、北海道の方でも見ている。倒木に関しては住宅への危険性や地滑りによる危険性は小さいと聞いている。今のところ整備する計画はないと聞いている。
熊谷会長	藤川委員の地元であるが、それなりに違和感があるようなので、現地を確認して対処していただければと思う。
熊谷真理子 委員	5ページの「生活環境の整備充実」の配水管整備のところ、臼尻地域という説明があったが、臼尻地域のどこなのか。
産業建設課 (川井課長)	水道事業については私どもの所管事務には入っていないが、地域に関する事項であることから企業局に確認している。臼尻簡易水道の設備は、豊崎から川汲の駐在所横の高校まで上がって行く市道のところまでが区域となっている。今のところ安浦と川汲の境付近を計画しているということであった。この区域は川汲までであるということで御理解いただきたい。
佐々木委員	5ページの「生活環境の整備充実」になると思うが、川汲温泉ホテルのところの道路がいつも濡れている。カーブが大きな道路だが、どうしていつも濡れているのかと思う。直すのが個人なのか市なのか、そのあたりがとても気になる。どこの道路も乾いている時であっても濡れている道路があるが御存じか。

産業建設課 (川井課長)	道道函館南茅部線の川汲温泉ホテルのすぐ下の道路であるが、私たちも状況は確認している。管理者の北海道にも状況の確認をお願いしている。今のところ北海道からは沢の方が崩れている状況にないということで、工事をするとかその辺の方針はまだ出していないということを確認している。もし、それを直すのはどこかとなると管理者の北海道となる。市では管轄外となる。
佐々木委員	あの道路は濡れてから長い。事故が起きてからでは危ないという感じである。雪が降ればなおさらのことであり、早めに直していただければと思う。
産業建設課 (川井課長)	今の御意見を踏まえ、再度北海道に申し入れをしたい。
佐々木委員	地域審議会で時々出る話題である。８ページに「いきいきと学び地域文化を育むまちづくり」というのがある。縄文のことだが、大人でもなかなか地域の人たちが、それに向かい力を入れることができなくて、みんなが悩んでいる。以前にも話していると思うが、小・中学校でどれくらいこれにかかわり、この地域の中空土偶や縄文文化交流センターを意識してなど、縄文に関しての勉強する時間をどのくらいとっているのか。子供たちに教えていくということはとても大事なことだと思う。
地域振興課 (佐藤課長)	土偶に関しては、小学３・４年生が使う社会科の副読本で活用されている。どの程度、何時間となると確認しないとわからないので、土偶とか縄文遺跡について小学校や中学校の授業で、どういうふうに、どのくらい使われているかということを次回報告したい。
佐々木委員	地域に住んでいて感じるのは、あまりそういうことが伝わらない。学校の事情もあるだろうが、縄文文化交流センターの人たちも一生懸命PRしている中で、地域ではどのくらい活用しているのかというのをすごく疑問に思っている。見たり文章を読むだけでなく、体験できるいろいろな講座がある。そばにそういうものがあるので、どんどん時間をつくってほしいという希望をこめて今話してみた。よろしく願います。
熊谷会長	学校で縄文の活用をいかにしているかということと思うので、まとめて次回報告いただければと思う。
高谷委員	８ページの「学校教育の充実」の「学校施設の整備」についてだが、中学校の統合にかかわって、どのくらいこの計画は進んでいるのか。

教育事務所 (田名部所長)	南茅部地区での統合については、昨年の7月に地域のPTA会長の連名のもと要望書を提出して、その後、学校教育審議会の中で審議して答申をいただいたところである。今段階で統合までの時間は多少持たなければならない。地域の中心あたりに学校がほしいという要望については、教育委員会で、関係部局と検討しているという段階であり、まだ結論は出ていないと聞いている。
熊谷会長	実際に、学校教育審議会や教育委員など審議にかかわる人たちが現場に入ってきているということではないのか。
教育事務所 (田名部所長)	統合という答申をいただいているので、今後の統合に向けた準備作業を進めていこうと思う。校舎をどこにするのかというのは、教育委員会の内部でまだ検討中ということしか聞いていない。
熊谷会長	ある程度方向が出たら、現地を確認してもらい、地域のPTAや関係者に周知して、理解してもらおうという方向で行っていただければと思う。
高谷委員	中学校は統合ということで進んでいると思うが、小学校はどうか。
教育事務所 (田名部所長)	小学校については、学校教育審議会に対して1校に統合する案で諮問をしており、今後いつからスタートするかは聞いていないが、早い段階でそういう作業が進んでいこうと考えている。また、地域説明会を教育委員会で開催すると思うので、それらの日程などがわかった段階で地域審議会に報告しながら開催となる。
熊谷真理子 委員	先ほども出たが台風の時、白尻町では大量の浮玉や空き缶・ペットボトルなどが海岸護岸のところに流れて来ていた。川井課長にも伝えているが、それを踏まえて、平成7年から続いていた缶バック運動は現在どうなっているのか伺いたい。 それと、例年5月に、女性団体や老人クラブが、昆布加工センターからトンネルまで缶拾いを行っているが、美化運動について教えてほしい。
熊谷会長	缶バック運動は、この頃行っていないようだが、実態はどうかということ、もう1つは、市で春と秋のクリーン作戦を行っており、町内会でも行っているが、それ以外に美化運動はどうか。
熊谷真理子 委員	学校でも、以前は子供たちの缶バック運動についての放送などが流れていたが、その運動はやめたのか。

市民福祉課 (吉田課長)	先日、9月13日に直販加工センターの前で、磨光小学校の児童たちが駐在や交通安全指導員の協力のもと、缶バック運動を実施した。 今年も昨年も実施している。
教育事務所 (田名部所長)	学校関連では、市民福祉課長から報告があったが、磨光小学校では缶バック運動は続いている。臼尻小学校についてはわからない。大船小学校では海浜清掃運動という形で活動に取り組んでいる。
熊谷会長	ごみ拾いや缶拾いは、全町にお知らせするものでもなく自発的に行うものと思うので、それが全地域に浸透してくれればよいと思うが、熊谷（真理子）委員の言うように、過去に行っていたものが目に見えていないような部分もあるので、可能であればお知らせしてみんなの力を借りるという方法もあるかと思うので、そういう方向で検討してもらえればと思う。
張磨委員	ボランティア清掃だが、ごみ袋の収集は、都度言わないと収集してもらえないのか。今年、雪が解けた頃に安浦の取付道路付近で女性部がボランティア清掃を行った。支所からもらったごみ袋だったが、出すのを忘れ、1週間遅れたところ、収集してもらえなかった。
市民福祉課 (吉田課長)	市民福祉課としては、ボランティア清掃の実施日について事前に連絡をもらい、それを環境部に連絡して、ごみを収集してもらおうようにしているが、連絡の行き違いがあったのかもしれない。
張磨委員	連絡をしなければ持って行ってもらえないということか。
市民福祉課 (吉田課長)	ボランティアのごみ袋を悪用するケースも想定されるので、事前に連絡をいただき指定した日に回収する形としている。
張磨委員	1つ2つでも連絡が必要ということか。
市民福祉課 (吉田課長)	そうなる。
高谷委員	以前オリックスの地熱発電の話があったが、今はどうなっているのか聞きたい。
産業建設課 (川井課長)	詳細は地域振興課でとなるが、私どもで市道の関係があり協議を進めている。前年度までの段階では、予定数量と大体よい温度を確保できるというような報告を受けている。今年度はさらに深度を深めて、蒸気を吹く根元まで

<p>熊谷会長</p>	<p>延ばすということで2,000メートルくらいだと思うが延長する工事を進めている。いい状況で進んでいるととらえている。今、配電関係の電線を張るとか次の段階までの協議をしてきており、今のところ順調であると捉えている。</p> <p>去年、オリックスが掘削を始めた。その後、わかる範囲で進捗状況を教えていただければありがたいという意見もあったと思う。現在の進捗状況を皆さんにお知らせできる範囲で結構なので、次の機会にでも教えていただければと思う。</p>
<p>地域振興課 (佐藤課長)</p>	<p>先日、支所長と現地を確認してきた。スケジュール的に若干遅れているという話があり、川井課長が説明したとおり2つ目の調査井を2,000メートルくらいまで掘削しているところである。今後の流れとしては、地域への説明というところが今年の日程であったが、若干遅れている。稼働については当初の予定は、2019年か2020年度あたりを目途に進めていると報告を受けている。詳細が出れば、地域審議会や地域への説明ということで地域町内会への依頼などが出てくると思う。</p>
<p>熊谷会長</p>	<p>地鎮祭に五十嵐前支所長と私と遠山議員、地元の加藤町内会長が出席させていただき、掘削したところでそれなりの温度が出たと喜んでいた経緯もある中で、採算的にどうなのか事業化はどうかということはこれからの話だろうが、地元で大々的な事業として関心がある。まして行政が地鎮祭に出席しているのだから、今後の進捗状況については、そのたびにとはいかないが、許される範囲内でお知らせいただければと思う。</p> <p>ほかに質問や意見などはあるか。</p> <p>(なし)</p>
<p>7 地域振興全般に関する意見交換</p>	
<p>(1) 北海道新幹線開業後の南茅部地域の取り組みについて</p>	
<p>熊谷会長</p>	<p>地域振興全般に関する意見交換である。前回の地域審議会で提案した北海道新幹線開業後の南茅部地域の取り組みについて、皆さんに意見を伺うこととしていたが、どなたかあるか。</p> <p>(なし)</p>
<p>熊谷会長</p>	<p>地域でどうするかとなると面倒であり、一人でできるわけではないので、大きい小さいは別にしても、各種団体で取り組むのが1番良いという思いもある。</p>

藤川委員	<p>昔のことだが、南茅部はやはり昆布の産地で、当時南茅部町で加工センターを運営していた。6つの漁協の職員2、3名ずつ関西や関東のデパートで昆布を販売しPRした経緯がある。今、北海道新幹線の開業後という中で、函館市として駅前で昆布をPRし、その観光客をいかに南茅部地域に呼び込むとか、函館市として南茅部の特産品をどうPRしていくかという発想はあるかないか。難しいと思うが問題はそこだと思う。鹿部町は特産品のたらこなどのPRを行っている。</p>
産業建設課 (川井課長)	<p>物販の関係については、旧函館市との合併以前の平成16年度までは、町直営の地場産業振興センターで、漁協と地場産の職員と町の職員が数名ずつ関西あるいは仙台などに行ってPRしていた。合併後、漁協も合併して平成24年度から直販加工センターは漁協の直営となった。今はそれを引き継ぎ漁協で内容は継続している。</p> <p>ブランド化の関係であるが、市としてのPRの発想については、函館市の新しい水産振興計画を基にしながら、市内の漁協も集まって昆布のPRの仕方あるいはネーミングの関係など協議を進めている。今は、結果は出ていない。</p>
藤川委員	<p>南かやべ漁協1本では力は弱いと思うので、函館市がバックアップして、市が主体で行うと違うと思う。漁協でも行っていると思うが、市としての積極性がほしい。そういう方法もあるのでないか。</p>
熊谷会長	<p>諸般の報告で、市議会でも昆布のブランド化について取り上げられたという話があったが、質問に対する函館市の答弁内容について詳しく説明をお願いします。</p>
佐藤支所長	<p>9月市議会の中でも、函館が全国一の昆布の生産量を誇る地域であることや、これまでの長い歴史の中で、付加価値の高い昆布を生産してきたということが、全国的に認知されていないという部分がある。これは、昆布の流通というものに複雑な部分があり、生産者があって流通も何段階もあり、最終的には関西や北陸の方で昆布が加工されて製品になるというような流れの中で、なかなか生産者の段階でPRしづらいという面があったということである。しかしながら、函館の昆布生産量は自治体の中では全国一なので、北海道の昆布では利尻や日高産のものが全国的に知名度が高く、函館産の昆布の認知度が低いということが現実としてあるが、流通の難しい面を踏まえた上で何ができるかということで、市議会での答弁として、漁協とどういう手法をできるのかということであった。1つは函館をPRするポスターの作製などもアイデアとしてあるのではないかとということで、南茅部の漁協だけでなく市内の5単協のそれぞれの考え方も踏まえた上で、市として検討してまい</p>

熊谷会長	<p>りたいという答弁であった。</p> <p>南茅部地域や昆布をPRするという事は、個人だけでできることではない。大船漁協の青年部では積極的に取り組んでいるみたいである。南茅部地域の中で「南茅部の明日を考える会」というのがある。まだ活動を本格的に行っていないが、例えばこういう団体を利用して、行政や漁協も入り、そういう人たちと懇談を持って昆布を含めた南茅部地域をどうするかといった議論も必要ではないかという思いもあるが、この点について行政としてどう考えているか。</p>
佐藤支所長	<p>地域としてどういう取り組みができるかというのは、地域内の組織として、メンバー構成にもよるが、広く意見を聞いたり、将来に対するいろいろなアイデアを出せるような場があれば、その会の中で議論できればと思うが、なければどのような形でそういう場面をつくれればいいのかということも検討しなければならないと思う。いずれにせよ地域の人が地域の将来について真剣にアイデアを出し合う場、この地域審議会もその1つと思うが、そういうのは非常に大事ではないかと考えている。</p>
熊谷会長	<p>地域づくりは地域審議会だけではない。また、地域の課題を議論するのも地域審議会だけではない。逆に行政から発信してそういう団体にある程度集まってもらってみんなで議論する場も必要と思う。そこには、今言った人ばかりでなく、南茅部から出ている議員、関連があれば地域以外の議員にも来てもらい、ある程度地域のことを考えていくということも必要ではないかという思いがする。今後そういう方向で考えていただければと思う。</p> <p>そのほかあるか。</p> <p>(なし)</p>
熊谷会長	<p>委員からも、アイデアがあれば今後の地域審議会で見聞をいただきたいと思う。</p> <p>そのほか、地域振興全般にわたって御意見御提言があれば伺いたい。佐藤（俊司）委員、今商工会の本所が恵山に行き、地域の商工業そのものが縮小されている雰囲気があるが、地域の商工会の代表として、地域全般にわたって南茅部地域は今後こういう方向で進めて行くような考えなどがあれば伺いたい。</p>
佐藤俊司 委員	<p>商工会の会員数も減って将来的にも減っていく状態で、これから商工会の力も弱くなっていくということがある。この地域は漁業の町なのだから、そのほかの商業を育てるというのも難しいと思うので、漁業者に商工会の会員</p>

熊谷会長	<p>になってもらう方がいいのではと思う。</p> <p>漁業者も商工会の会員になってもらえればという意見であるが、可能であればすごくいいことだと思う。それをどう実現していくかというのを皆で協議すればいいと思う。地域を活性化するため、地域をこれ以上過疎化させないための1つの方法と思う。今の意見は、今後皆さんと協議したい。ほかにないか。</p> <p>(なし)</p>
8 その他	
(1) 地域審議会委員の任期満了に伴う委嘱までのスケジュールについて	
熊谷会長	日程8のその他について、任期満了に伴う委嘱のスケジュールについて説明をお願いします。
事務局 (佐藤課長)	<p>地域審議会委員の任期満了に伴う委嘱までのスケジュールについて御説明する。</p> <p>資料2を御覧いただきたい。現委員の任期については、本年の11月末までとなっており、現在事務処理を進めている。委員は、学識・経験を有する方と、公募による方のうちから、市長が委嘱することと規定されている。10月3日から10月21日までの期間、委員の公募を行ったところであり、学識経験者については、今後関係団体に委員の推薦をお願いすることとしている。11月には委員の選考を行い、12月1日付で委嘱することとしている。</p> <p>また、12月上旬に、第3回地域審議会を開催したい。議題として、委嘱状の交付のほかに、委員の紹介、会長副会長の選出などを予定している。</p> <p>説明は、以上である。よろしくをお願いします。</p>
熊谷会長	<p>質問あるか。</p> <p>(なし)</p>
熊谷会長	<p>その他で質問あるか。</p> <p>(なし)</p>
熊谷会長	2つの部局から説明がある。まず教育事務所から報告がある。
教育事務所 (田名部所長)	<p>南茅部教育事務所が所管する南茅部青少年会館の廃止についてである。</p> <p>南茅部青少年会館は、昭和46年度に開設し、地域の青少年の健全育成な</p>

どを担ってきた施設で、現在、安浦町内会が指定管理者として管理運営を行っている。市の「今後の公共施設のあり方」では、教育委員会が平成28年度中に、存廃や転用も含めた施設の必要性を判断することとしている。当該施設は、開設以来地域の運動会や保育園、スポーツ、バンド練習、駒踊りの練習など、長年、地域に親しまれてきたが、築44年が経過し、耐用年数は38年で老朽化が進み、利用者の減少のほか、神社の敷地を借用している状況や、災害時の避難所に指定されているが、昭和46年以前の耐震基準であり、耐震強度が不十分な施設であると考えられ、このまま継続して使用することは難しいと考えている。

教育委員会の判断としては、研修室や体育館機能を有する代替施設として、安浦会館や総合センターならびにスポーツセンターがあることから、指定管理の委託期間が終了する平成29年度をもって用途を廃止し、平成30年度に解体、更地にして借地を安浦稻荷神社に返地する。なお、指定管理者である安浦町内会とは、今年8月に役員会へ説明し了承を得ているところである。

熊谷会長

地域の町内会の理解をいただいているということである。質問はあるか。

(なし)

熊谷会長

かなり老朽化しているために廃止ということで理解していただきたい。

次に、病院の改革プランについて結論が出ていないことから、その経過報告について、説明があるのでお願いする。

南茅部病院
(佐藤事務長)

南茅部病院の将来のあり方に関して、これまで病院局管理部長の藤田がこの地域審議会に出席し、検討の経過等を説明させていただいていたが、前回の地域審議会において、藤田部長から「病院事業改革プランの素案を作成し、10月には御意見を伺いに来たい。」という話をしたところである。病院局ではこの間、改革プラン素案の策定に鋭意取り組んできているが、市長部局との協議が整うところまで至っていないというのが実態で、おそらくは11月になってしまうということのようである。

作業が遅れている大きな要因は、市立函館病院の経営状況が非常に思わしくないことによるものである。

2年続けて大きな赤字を出し、今年度も大変厳しい状況に置かれており、その対応に時間がかかっており、改革プラン素案策定において収支計画を立てる上で最大の問題となっているようである。

委員の皆様は任期は今回までで、12月からは新たな顔ぶれで地域審議会が開催されることになる。病院局としては、新たな委員の方々には改めて説

	<p>明させていただきますが、それとは別に、11月中に改革プランの素案ができあがった段階で、皆様にお集まりいただき御報告をさせていただきます、御意見をお聞かせいただきたいと考えているところである。</p> <p>御報告できる段階となったら、熊谷会長に御相談させていただいた上で病院局から別途御連絡をさせていただきますので、よろしく願います。</p> <p>以上である。</p>
熊谷会長	<p>ただ今の説明のとおりであり、11月を目途にということである。日程が決まり次第皆さんにお知らせしたいと思う。質問はあるか。</p> <p>(なし)</p>
熊谷会長	<p>案内があった時に、またお集まりいただければと思う。</p> <p>本日の予定はすべて終了した。事務局に進行をお返すする。</p>
事務局 (佐藤課長)	<p>最後の地域審議会のため、熊谷会長から一言ごあいさつをお願いしたい。</p>
熊谷会長	<p>地域審議会の終了に当たり、一言ごあいさつを申し上げる。</p> <p>平成26年12月から2年間、高谷委員とともに、南茅部地域審議会の正副会長の重責を担わせていただいた。</p> <p>この間、本審議会では、合併後10年間の合併建設計画の執行状況について、市長に答申をした。また、学校の統廃合や南茅部病院の将来のあり方など様々な課題についての意見交換等を行ってきた。特に病院については、町内会長8人そろって市長・病院局長へお願いに行った。この後函病の方向性が決まり次第、南茅部病院の今後についても地域に入って藤田部長が説明に来るということで、その中で皆さんから御意見をいただければと思っている。さらに、本年3月には待望の北海道新幹線が開業し、地域を取り巻く環境が大きく変化してきた中、本審議会の占める役割は非常に大きかったものと感じている。</p> <p>2年間、無事任期を全うすることができたのは、委員各位ならびに本庁・支所の職員の方々の特段の御配慮と温かい御支援によるものと心より感謝申し上げます。</p> <p>結びに、南茅部地域のさらなる発展と、関係各位の御健勝を御祈念申し上げます、閉会に当たってのごあいさつとする。</p>
事務局 (佐藤課長)	<p>平成28年度第2回函館市南茅部地域審議会を終了する。</p>
	<p>(午後4時30分 閉会)</p>